

中学生が復興現場で土木作業体験

「社会の役に立つ仕事」実感

局台
北整
東仙

仙台市立柳生中学校2年生の生徒による職場体験学習が13日、東日本大震災の復興現場で行われ、土木作業を経験した。

東北地方整備局仙台河川国道事務所が、建設業界全体の担い手確保の環境として開催したもので、中学生に門戸を開いて開催。進路選択のひとつとして、建設業の仕事に興味を持ってもらうと、宮城県建設業協会の協力を得て、体験型の現場見学会を行った。現場は、名取市閑上で、



コンクリートブロックの設置を体験

地震津波で壊れた河川堤防の復旧工事。橋本店が施工を担当し、堤防の嵩上げ工事で粘り強い構造の堤防建設を進めている。職場体験は、「復興の現場をみたい」と希望した田中秀汰さんと鈴木悠矢くんが参加。GPSを搭載したクレーンから誘導システムを基に、コンクリートブロックの設置を体験したほか、測量機器を使い土に埋めたカプセルを探し当てる宝探しにも挑戦した。体験を終え、「建設業が人のためになる、すごい仕事だと思った」「今回の体験で将来、社会に貢献できる仕事に就きたい」と感想を語った。

仙台河川国道事務所は、28日にも仙台南部海岸復旧工事（施工：熱海建設）で仙台市立郡山中学校2年生による体験会も予定している。